



櫻満開の中で、2018年度の日本写真映像専門学校の入学式が挙行された。入学式独特のピンと張り詰めた空気感がいい。そばに立つ同期の人に、今日初めて出会ったとは思えないぐらいの親近感を感じられる。この人の心臓の音がわたしの胸に響く。この人とステキな時間を共に過ごしたい。ますます写真・映像がスキになりそうな予感がする。日本写真映像専門学校 第62期生

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol. 46

UP! SPECIAL  
HAPPY is  
FAMILY

何度か味わってきた入学式なのに、  
ここの入学式は格別。



きっとそれは自分で選んで入学した学校だからでしょう。自身が入りたいと思った学校はあなたの強い意志の表れです。時間が進むに連れてイメージと違う部分に出会うかもしれません。その時には新しい未知のジャンルを発見したんだと思うとまたモチベーションが上がるはずですよ。

入学式の会場には新入生、在校生、そして保護者の皆様で満席である。ピンスポットがホルのセンターにある櫻を照らす。ドラマチックなオープニングである。ますます胸が熱く感じる瞬間である。

入学したら、あれもこれもやりたいとぼんやりと描いていたスケッチが、現実のものとなって見え始める。そんな具体的なデザインが脳裏のパソコン上で動き、ひとつひとつのパーツが組み重なっていくようだ。イメージした図面のように、オシャレにカッコよく出来上がっていないかもしれないが、これはこれで楽しめる。

あっ、閉じていた顔を開けると壇上では校長先生がしゃべっている。その話の内容が、所々耳に入ってくる。きつとここからがスタートで、頑張れとわたしたちを励ましてくれているのだ

ろう。

心地いい緊張感のなかで、ゆらゆらゆらしている会場がざわめきます。一生に一度しかない、専門学校の入学式が終わったのだと肌では感じているが、アタマのなかではまだ気持ちよさに浸っている。

後悔しないためにスキな専門分野の道を選んだ。『誰かが歩いた道を歩くのもいいが、自分が歩いたところが道になる』と誰かが言った。自身で厳しい道を、よたよたと歩くのはちょっと難しいと感じるが、先輩方が歩いた道ならわたしでも歩めるし、既存の道でも新たな発見ができると思えている。大切なことは「前へ、前へ」進むことだと思おう。

疲れたら止まってもいいよね。前をしっかりに向いていけば、いいよね。(は)